

クラス番号	311	担当教員名	角崎洋平
		他専修学生受入上限人数	2名
テーマ	政策を評価する——公平性・効率性・有効性の視点から		

## ゼミナール概要

### ■ 目的

国や自治体を実施する政策の良し悪しを評価し、政策を改善する方法を考える力（提案する力）を高める。

### ■ 内容

ゼミで扱うのは公共政策（福祉政策・経済政策・外交政策など）全般です。政策の実施内容だけでなく、その政策の実施を金銭面で支える財政（税・社会保険・予算制度）の在り方（財政政策）についても考えます。ともかくも、確かな論拠に基づき、かつ論理的に、公共政策を評価する力を身に付けることを目指します。

評価するポイントは、とりあえずは以下の3点。

- ▶ 有効性：政策課題を事実に基づいて精確に認識し、その課題解決のための適切な方策を選んでいるか
- ▶ 公平性：市民の税や社会保険で政策が実行されていることを踏まえた、えこひいきのない政策であるか
- ▶ 効率性：成果を得るための費用は極力抑えているか、同じ費用で最大限の政策効果を得ているか

他にもあるかもしれませんし、あると思います。何を評価ポイントとするべきか、どういう状態であれば評価できるか（たとえばどういうことに配慮していれば「公平性」を充たしたことになるか）などについて、ゼミのなかでみなさんと議論しながら考えていきたいです。

### ■ 授業計画

- ・3年前期は、基礎自治体レベルの政策を評価します。具体的には武豊町における既存の各種政策の調査研究を行います。当然、そのためのフィールドワークも行います。単に実施されている政策の内容を調べるだけでなく、政策の目的や位置づけ（総合計画上の位置づけ）、予算措置についても踏まえて評価をしてもらい、改善点を考えていきます。

（※ 財政についての理解のためゼミ生は3年前期の「福祉財政論」を履修することを原則とします。）

- ・3年後期は、国レベルの政策を評価します。3年前期まででみなさんがいろんな授業で学んだ社会保障政策や、角崎が担当していた経済政策や現代生活に関するもの、その他皆さんが関心のある各種政策、なんでもよいので既存の政策（海外の政策でもよいです）を各自が一つとりあげて、政策評価を試みてください。あわせて、政策研究の手法についてもテキストを用いながら学んでいきます。
- ・4年次は、原則として3年次に各自が取り上げて政策評価した政策について深掘りして研究し、その成果を卒業論文としてもらいます。4年前期のゼミでは、研究対象とする政策について、自分が考えている「あるべき改革の方向性」を提示してもらいます。ゼミ内でその是非についてディスカッションしていきます。4年夏休み中には卒論の完成を目指し、4年後期は各自の卒業論文（政策研究）の発表や相互評価を行います。

### ■ その他留意事項

- ・上記とは別に、各自の問題関心を深めるために、読書レポートを3回課します。  
（3年次スタート時、3年夏休み、3年冬休み）
- ・年間で複数回、懇親会を開催します（ゼミ生間の「横のつながり」を大事にしたいと思っています）

## 担当教員からのメッセージ



政治や行政や政策、国や自治体の在り方について、何か不満がある人、理不尽だと思っていることがある人、そしてその不満・理不尽を少しでも改善したいと思っている人を歓迎します。エントリーシートでは志望動機とともに、なんでもよいので、政治・政策・行政について、不満・理不尽に思っていることを書いてみてください。「福祉」についての不満でもよいです（いまの「福祉」は嫌いだ、という人も歓迎します）。大学とか税金とかバイト（労働）とか家族とか、身近な「生きづらさ」に関することでもよいです。ゼミでは、みなさんが、そうした不満・理不尽・生きづらさを言語化したり、一歩引いて客観的に分析したりする手伝いをしたいと思っていますし（だからいま時点ではうまく文章を書けなくてもよいです）、それを少しでも改善するために方法をみんなで考えていく場にしたいと思っています。